

資料

小児科と小児歯科の保健検討委員会設立の経過

小児科と小児歯科の保健検討委員会代表
前日本小児保健協会会長
前川 喜平

子どもの歯の問題は重要であるにも拘わらず、小児科医と小児歯科医の意見が異なるため、子育ての現場において種々の混乱が見られることがある。この問題について、以前から日本小児保健協会の歯科会員よりこのための委員会設立の要望が私になされていた。その後、平成15年2月11日開催の日本小児歯科学会における私の特別講演「少子化社会の取り組み」を契機として、委員会設立の機運が高まり、平成15年3月13日東京医科歯科大学において小児科医と小児歯科医の会合が持たれた。

最初の会合において、名称をチャイルドヘルス懇話会と仮称し、検討すべき課題を必要順に列挙した。以後、2か月毎に懇話会を開催し、「イオン飲料とむし歯」・「母乳とむし歯」などの現在における考え方をまとめてきた。

小児科医と小児歯科医の考えがまとまるにつれ、「この考え方を小児科医と小児歯科医の総意として公表し普及すべきである」の意見が強くなり、これを目的として日本小児科連絡協議会に各団体よりの委員選出を依頼した。その結果、平成15年12月9日に日本小児科学会・日本小児保健協会・日本小児科医会よりの委員の出席を得て名称を改め、第1回「小児科医と小児歯科医の保健検討委員会」が開催された。以来、3回の委員会においてチャイルドヘルス懇話会で作成された「イオン飲料とむし歯」「母乳とむし歯」案の検討を行い、修正した案を日本小児科連絡協議会で討議し修正の上、認められたのが本案である。本案はこのまま公表し、各学会の会員よりのさらなる意見を加え修正したものを現時点における「考え方」とする予定である。さらに社会的背景の変化に応じて適時修正していく。

子どもの歯の問題は口腔衛生（お口のケア）ばかりでなく、子どもの食生活・食育や健康増進とも関連している。今後、本委員会は子どもの口腔に関する種々の問題を、必要に応じて臨床心理・栄養なども連携して検討し、小児科医と小児歯科医の総意として、現時点における「考え方・指針」を作成していく予定である。

小児科と小児歯科の保健検討委員会

代表	前川 喜平	神奈川県立保健福祉大学	教授
	小口 春久	日本小児歯科学会会長	北海道大学歯学部 教授
	高木 祐三	日本小児歯科学会副会長	東京医科歯科大学大学院 教授
	井上美津子	昭和大学歯学部小児歯科	助教授
	伊藤 憲春	日本小児歯科学会関東地方幹事	ミルク小児歯科
	丸山進一郎	全国小児科開業医会	アリスバンビーニ小児歯科
	前田 隆秀	日本小児保健協会	日本大学松戸歯学部 教授
	巷野 悟郎	日本保育園保健協議会会長	こどもの城小児保健クリニック
	松平 隆光	文京区医師会会長	松平小児科
	神川 晃	日本小児科医会	神奈川小児科クリニック
	河野 陽一	日本小児科学会	千葉大学大学院 教授